TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

エフェソの信徒への手紙 - 恵みのスペクトル　見過ごしていた力

エフェソの信徒への手紙 4 章 1～6 節

2025 年12 月 13 日 & 14 日
ジェシー　セザリオ　牧師

ご挨拶
私たちと共に礼拝してくださっている皆さん、TBC ウェスト・トウキョウ、TBC 三郷、スヴァ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会の皆さん、こんにちは。父なる神と主イエス・キリストの恵みと平安が皆さんと共にありますように！
祈りましょう。

エフェソの信徒への手紙 4:1－6
1 ですから、主の囚人である私は、あなたがたに勧めます。招かれたあなたがたは、その招きにふさわしく歩み、2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、3 平和の絆で結ばれて霊による一致を保つよう熱心に努めなさい。4 体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれたのと同じです。5 主は一人、信仰は一つ、洗礼（バプテスマ）は一つです。6 すべてのものの父なる神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内におられます。

はじめに：示された動機
本日は第 4 章を見ていきます。エフェソの信徒への手紙において、第 4 章では、パウロの考えが基礎から応用へと移行し始めます。

最初の三章において、パウロは信徒たちについて「あなたがたは選ばれた」「あなたがたは証印を押された」「（共に天上で）座に着かせてくださいました。」といった事実に基づく言葉を述べてきました。このような真理について、パウロは第 3 章の終わりまで語り続けてきました。

私たちは、本や映画のヒーローの起源の物語において、これをよく見かけます。ヒーロー達が何を持っていて、その力の源はどこにあるのか、過去にどんな苦難を乗り越えてきたのかを知ります。そして何が起こるのでしょうか？彼らは忘れてしまうのです。経験したこと全てを忘れてしまうのです。
そして、すべてを思い出す瞬間が来て、ヒーローたちは勝利を得る力を手に入れることができるのです。

エフェソ人の物語も同じです。しかし、このエフェソ人の物語の美しさは、彼らだけの物語ではない点にあります。彼らの起源の物語は、同時にあなた自身の起源の物語でもあるのです。
パウロが彼らに語ったことは、あなた方、教会の本質そのものです！これはあなたの起源の物語です――これがあなたの本質であり、あなたを形造るものなのです。

信徒の皆さん、聞いてください。あなたが何者であり、何によって形造られているかをお伝えします：あなたは天における全ての霊的祝福をもって祝福されています。世界の創造より前に選ばれ、イエス・キリストを通して子として受け入れられました。王であるイエスは今、神の右の座に着き、あらゆる支配、権威、力、主権、そしてこの時代だけでなく来るべき時代における、あらゆる名の上に高く座しておられます。

あなたは、かつては罪の中にあって死んでいました。この世の流れに従い、空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な子らに今も働く霊に従って歩み、怒りを受けるべき子らとして生きていました。しかし、あわれみに富む神は、キリストとともにあなたたちを生かし、よみがえらせ、天の座に共に座らせてくださいました。それは、あなたがたがかつて仕えていた敵よりもはるかに高い所です。

さらに、あなたは、明らかにされた大いなる秘義の証しです。すなわち、キリストご自身が私たちの平和であり、二つのものを一つにし、ご自身の肉によって敵意の隔ての壁を打ち壊し、ユダヤ人と異邦人を一つの新しい人類としてご自身の内に創造されたのです。こうしてユダヤ人と異邦人は同じからだの一員として共に相続者となり、今や天にある支配者や権威者たちに対して、神の豊かな知恵を示す一致を成し遂げたのです。

それゆえ、あなたがたはもはやよそ者ではなく、神の家族の一員であり同胞です。あなたがたは共に建て上げられて、主が住まわれる聖なる神殿となり、聖霊によって大胆に父なる神に近づくことができます。内なる人において力づけられ、神の満ちあふれるもの全てによって満たされています。神は、あなたの願いや思いをはるかに超えて、豊かに成し遂げてくださる方です。
これがあなたの本質であり、あなたが持っているものなのです。

パウロはエフェソ人への手紙において、第 3 章までを通して、全体でたった一つの命令、ただ一つの指示を与えています。それは「思い起こせ」ということです。それだけです。あなたが何者であり、何によって造られたのかを思い起こせということです。

さて、第 4 章から、パウロはイエス・キリストの弟子として歩むための 40 の命令を述べていきます。これが、今日のメッセージにおける私たちの出発点です。

記憶か、そうでないか
1 ですから、主の囚人である私は、あなたがたに勧めます。招かれたあなたがたは、その招きにふさわしく歩み、
ですから、…私は。 パウロはここで、これまでの背景を総括して「あなたがたが招かれたその招き」について語り、私たちがその召しにふさわしく歩むことを望んでいるのです。

パウロは獄中にいて、しばしば自らの言葉に意味を重ねることを好みます。彼はこの技の達人ですが、それはもちろん聖霊の力によるものです。彼の状態とあなたの状態との対比に注目してください。

パウロはこう言っています。「おい、私は牢獄に閉じ込められて身動きも取れないが、あなたは違う――あなたは自由に歩ける！だから信徒であるあなたは、自分が何者であり、どこから来た者であるかにふさわしく歩むように気をつけなさい。」
刑務官に手錠をかけられ、どこにも行けない状態でパウロがこれを書いている姿を想像してみてください。
この召しは、あなたと神との間の個人的な招きではありません。エフェソ 4:4 でパウロは「一つの希望にあずかるようにと招かれた」と述べ、コロサイ 3: 15 では「招かれて一つの体とされた」と言っています。
イエスが弟子たちを「人間をとる漁師」として召されたとき、その意図は、彼らが網を持って出て行き、神の言葉と力によって可能な限り多くの人々を救うことでした。私たちは誤って、この召しがイエスとの二人きりのデートや男同士の集まりを意味すると考えがちです。違います。それは神の家族全体と共に招かれる婚礼の宴への招待なのです。
それは単に「選ばれる」（あるいは選び）ということだけではなく、その時に始まり、今もなおここにある新しい人類へと「集められる」ことなのです。
パウロは神の神殿を再建し、国境を越えたこの信徒家族の背後に、敵意の壁を退けます。もし自分が召されたと考えながらも、一致のために努めないなら傲慢に陥ることをパウロは知っています。これがユダヤ人の誤りでした――自分たちが「選ばれた民」であると信じ、それが異邦人を軽蔑する結果を招いたのです。

パウロは、それがどういうことかよく知っていました。彼は自分が邪悪で悪魔的な思想に囚われていたときのことを覚えています。ユダヤ人として、ファリサイ派として、そしてかつてはキリスト教徒を迫害していた彼の人生は、「神は、その独り子をお与えになったほどに、この世を愛された」という言葉とはまさに正反対のものでした。
パウロは自分がどこから来たのかを知っています。神の民に対して向けていた自らの敵意を覚えています。選ばれた者だと認識しながらも他者への憎悪に満ちているとき、それが殺人に至ることを覚えています。

さて、私たちへの適用について考えるとき、記憶が関わってきます。記憶とは、記憶の定義に当てはめると、過去にあった何かについてでなければなりません。そうでなければ、それは記憶とは言えません。
パウロが明確にしたいと、明確にしようとしていることは、あなたの敵意の壁が打ち砕かれ、過去のものとなっているかどうかです。
私たちは皆、救われる前に二つの領域の敵意を持っていました。一つはもちろん神に対する敵意ですが、もう一つは隣人に対する敵意です。
ですから、ふさわしい歩みは神との交わりから始まりますが、その歩みが完成されるのは、キリストにおいて、あなたが神の家族と愛に満ちた交わりの中にいるときなのです。

イエスはあなたの王ですか？はい、ですか？素晴らしいです。でも、イエスの民のすべてがあなたの民ですか？
なぜなら、もしあなたが敵意を抱いているなら、それは単なる記憶ではなく、今この瞬間もあなたの心を占めている現実なのです。
パウロはエフェソ人について、当時のユダヤ人と異邦人信徒との間の敵意を明らかにしています。

しかし聖書は、キリストの体である教会の中で、誰と誰の間であれ不一致があることは罪だと述べています。それは、あなたが TBC の特定のグループとの間に抱える不一致かもしれませんし、教会の元メンバーとの不一致かもしれません。あるいは、牧師、教授、組織の長、あるいは教会の奉仕者との一致の場合もあるかもしれません。

私たちが、物事の見方が異なるのは当然です。しかし問題は、この違いがあなたをその人との率直な対話へと導くのか、それとも自己正当化によって憎しみや敵意へと孤立させるのか、ということです。
覚えておいてください。サタンは、人が孤立した状態の中で働くのです！エバのときのように、あなたが一人きりの時に攻撃を仕掛けてきます。エバは独りで罠にかかり、神のようにありたいという嫉妬から罪を犯しました。これがサタンの手口なのです。
神の家族は一致の中で働くよう召されています。これが、パウロが私たちに理解してほしいことなのです。

ここで尋ねたいのは、あなたはこのように歩んでいますか？ イエス・キリストにおける一致の道を歩んでいますか。それとも孤立したサタンの道を歩んでいますか？
あなたは他者と対話することを望んでいますか？なぜなら、サタンは孤立の中で罪を抱かせるからです。
そこでパウロは、私たちが一致を保つための四つの徳を教えています。

次の箇所に進みましょう……
2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、3 平和の絆で結ばれて霊による一致を保つよう熱心に努めなさい。

第一に：謙遜：パウロはまず、一致への道には何よりも福音に根ざした謙遜が不可欠であると私たちに思い起こさせます。福音に根ざした謙遜でなければならないことに注目してください。
このような謙遜は、私たちがかつて歩んでいた死の状態を理解することに根ざしています。
あなたがかつて歩んでいたふさわしくない人生を思い起こすようパウロは呼びかけています。神の善さと聖さの外にある、人生の本質だと思い込んでいた愚かな追求。かつて神の怒りを受けるべきだった他の信徒たちと何ら変わるところのない存在であったこと。
しかし今、私たちは神の力によって、かつて仕えていた敵たちに対する勝利、命を与えられています。そしてパウロによれば、このような力を授かっている以上、私たちは互いに柔和であるべきです。

私たちが持つ柔和さは、語源のギリシャ語では、大きな力を持ちながら自制を保つことを意味します。
これは、私たちが神の霊と義に満たされる瞬間であり－たとえ自分が正しいと分かっていても、誰かが罪を犯した時に、怒りを爆発させたり恨みを抱いたりしないことでもあるでしょう。

忘れないでください。私たちはまだ誰も完全な者、栄光のからだに変えられてはいません。そして私たちは皆、キリストの内にそれぞれ異なる方法で、あるいは異なる速度で成長しているのです。信徒でも罪を犯すのです！ そして私たち一人ひとりは、義と聖さへの回復を励ますために、互いを必要としています。毎日毎日。

それからパウロは、私たちの柔和さに加えて、寛容さ、つまり忍耐を加えます。これは他者に対する忍耐を意味し、私たちに対する悪行に対して、報復の気配を少しも見せないようにするためです。

さらにパウロは、互いに耐え忍ぶべきだと加えています。では、どうすればよいのでしょうか？ この用語を注意深く見ると、それは互いの欠点を許容し、他者を自分より優先することによって実現されるのです。
謙遜、柔和さ、寛容さ、互いに耐え忍ぶこと、これらはすべて、2 節の終わりでパウロが言及している愛という傘の下にあるのです。これらすべては愛をもって行われるのです。

コリント一 13 章との類似点に注目してください。
愛は忍耐強い。愛は情け深い。妬まない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、怒らず、悪をたくらまない。不正を喜ばず、真理を共に喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。
愛は決して滅びません。わたしたちは、互いの一致を保つよう努めなければなりません。一致はわたしたちが作り出すものではなく、聖霊がもたらすものです。とはいえ、わたしたちは愛によって一致を保つ必要があります。「平和の絆」は、私たちが敵意を捨てて愛をまとうときに生まれます。平和を保つことは、自動的に起こるものではありません。

イエスは、ヨハネ 14:27 でこう言っています。
私は、平和をあなたがたに残し、私の平和を与える。私はこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

適用に関する質問：あなたは同じことを他者に言えますか？
イエスはそのように歩まれました。彼は平和を作る人でした。
あなたもそのように歩んでいますか？あなたは平和を作る人ですか？あなたは古い習慣を脱ぎ捨て、霊において心を新しくされたでしょうか。もしそうでないなら、キリストに似た新しい創造を身にまとい、イエスが歩まれた道を歩みますか？

この後、パウロは私たちの信仰を説明する七つの「一つ」リストを提示します。それは一つに結ばれた共同体であり、教会が持っているものを正確に定義する信仰告白、あるいは真理の「剣」として機能します。
この一致の中に私たちが持つものは、いかなる宗教にも存在しないことに気付いてください。

では、一つについて次の箇所です。
4 体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれたのと同じです。5 主は一人、信仰は一つ、洗礼（バプテスマ）は一つです。6 すべてのものの父なる神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内におられます。

この信仰の定型の表現でパウロが教える内容は、歴史的に見ると新約聖書の思想と旧約聖書の思想の両方を含んでいます。そしてパウロの教えは、非常に多面的で相互に関連し合っており、生きています。

この箇所に三位一体を見ることができます。4節には聖霊が、5節には主イエスが、6節には父なる神が示されています。そして三位一体の各人格が、信仰においてそれぞれの役割を果たしておられるのです。

ただ一つの聖霊が、私たちをキリストの一つの体である教会へと招いておられます。教会は一つの体でありながら、旧約聖書の概念におけるユダヤ人のメシアを待ち望んでいました(5節)。しかし今や、メシアであるイエスはすべての者の救い主です(6節b)。
私たちが神であると知る主イエス・キリストこそが、私たちが信仰と信頼を置くお方です。そして私たちは父と子と聖霊にあってバプテスマを受け、キリストの体へと招き入れられます。(4節)―しかしそこで終わりではありません。なぜなら父はすべてのものの上に、すべてのものを通して、そして御自身の体としての私たちみんなの内におられるからです(4節)。

パウロが示した定型の表現は、神と神の民との神聖な、生き生きとした一致です。
私たちの上にありながら私たちの内に住まわれる神を持つ宗教はありません。イエス・キリストがユダヤ人のメシアであると同時に世界の救い主であると告げる宗教はありません。父と子と聖霊の名によって人々に洗礼を施す宗教はありません。世界のメシアであるイエスの再臨を待ち望む宗教はありません。

パウロにとってのそれは、ユダヤ人と異邦人、そしてあなたと「彼ら」の両方に対する約束の成就です。ちなみに、その「彼ら」のところには、あなたが好まない者人たちを入れてください。「すべてのものの上に、すべてのものを通して、すべてのものの内に」おられる唯一の神のもとに、全てはあるのです。

聖書は、主の御名を呼び求める者はだれでも、つまりどんな人でも救われると語っています。救うのはイエスです。イエスとは「ヤハウェが救う」という意味です。
主は特定の種類の人だけを救うのではありません。私たちの信仰は、イエスが世界の救い主であると告げています。あなたも、そしてあなたにとっての「彼ら」も。これは世界中の誰にでも当てはまります。しかし私は、TBCは幸せだと感じます。

ロサンゼルスの教会を訪れた時、知ってはいたものの、TBCとは全く違う光景に驚きました。建物のことではありません！50カ国以上の国や地域の人々を見かけることがなかったのです。
ある時点で牧師がゲストたちに話しかけ、どこから来たのか尋ねました。すると一人が「テキサス州です！」と言いました。すると牧師は「わあ、カリフォルニアからは遠いですね」と言いました。次に別の人が「ニューハンプシャー州です！」と言うと、牧師は感心した様子でした。
その時私はトイレにいたのですが、講堂の音はトイレにも流れていました。急いで戻って「私たちは日本から来たんです！！」と言いたかったのですが、彼はちょうど話し終えたところでした。私は妻を見て「なんで何も言わなかったの…」と言うと、彼女は肩をすくめるだけでした。
東京バプテスト教会という一つの場所で、これほど多様な文化を目の当たりにし、体験できるという恵みに気づいていますか？これは私にとって祝福です。天国の一片を垣間見ているのだと思えばなおさらです。

パウロは、あらゆる敵意を打ち砕かなければならないと教えます。そして私たちを新たな人類としての一致へと引き寄せます。この言葉をユダヤ人キリスト者と異邦人キリスト者が聞いたとき、「まさか！」と思ったかもしれません。しかしパウロは、彼らがそれを乗り越えなければならないと語っていたのです。

今日、私たちにとってそれは天国において、神の民が以下の場所の信仰者たちによって構成されていることを意味します。これらをアルファベット順に列挙します。
アメリカ人、アルメニア人、ボリビア人、ボスニア人、イギリス人、チリ人、中国人、クロアチア人、フランス人、ドイツ人、ギリシャ人、インド人、イラン人、イラク人、アイルランド人、イスラエル人、日本人、韓国人、パキスタン人、パレスチナ人、ペルー人、ポーランド人、ロシア人、セルビア人、台湾人、トルコ人、ウクライナ人、ベトナム人、そしてあらゆる国々の人々が、天国では同じ屋根の下で神を礼拝しているのです。まさに、これらの国々からの多くの人々がここTBCでそうしているように。

私たちの中には、これを実践するのが難しいと感じる人もいるでしょう。「そんな違う国々は自分とは関係ない」と思うかもしれません。しかし福音は関係あります。福音はあなたと彼らと深く関わっているのです。
そしてこの福音こそが、たとえどれほど不快に思われようとも、私たちが世界に伝えるべき唯一の信仰です。神の言葉はこう告げています。「主イエス・キリストを信じる者は、御子と共に、その民として永遠に住む。」と。(参照:ヨハネ3:16)

使徒言行録1:8「ただ、あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となる。」
わたしたちの信仰の福音は、TBCに閉じ込めておくものではありません。わたしたちの信仰は、すべての被造物に宣べ伝えられるべきなのです。東京に住むあなたは、世界中の人々がここを通る中で、実質的に全世界に福音を伝えることができるという恵みにあずかっています。これは特に英語話者として私たちがここにある恵みのひとつです。

ジョエル牧師は伝道活動を企画し、世界中から集まる宣教チームと共に働いています。東京の路上で、たびたび外国人の方々に福音を伝えています。あなたもその一つに参加してみませんか？私たちのDetention Center Ministry(受刑者に対する伝道ミニストリー)では、文化の壁を越えて信仰を分かち合っています。聡牧師とアレックスは、そこに収容されている、最も伝道が難しいとされる国々の人々にも福音を届けてきました。あなたもこの活動に参加してみませんか？

機会は備えられています。参加することを検討してみませんか？
しかし、ここには私たちが見過ごしていたかもしれない、もっと大きな何かが起こっています…。

結論
パウロは、私たちがここで見失ってはならない非常に重要なことを知っています。
それは単に、歴史的・祖先的・国家的・文化的な関係に関わらず、単に仲良くやっていくだけの問題ではないとわかっていたのです。それ以上の深い意味があるのです。
体の一致が失われると、からだは動けなくなります。パウロはふさわしく歩みなさいと言います。しかし体が壊れてしまえば、「起きて、床を担いで歩く」ことすらできません。
この体である私たちは、一致なくして主に礼拝を捧げることはできません。一致なくして福音を分かち合うことはできません。一致なくして互いに仕え、回復し合うことはできません。一致なくしてそれらを実現することはできないのです。

「神を愛している」と言いながら、自分のきょうだいを憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える自分のきょうだいを愛さない者は、目に見えない神を愛することができないからです。(ヨハネ一4:20)

お互いに交わりを失い、愛し合わなくなったとき、それは同時に神との交わりも失っていることを意味します。なぜだか分かりますか？

パウロがこの六つの節で語ってきたことを改めて考えてみてください。彼は私たちに思い起こしてほしいのです。あなたが何者であり、何から造られているのかを……。
パウロはまず「ですから」と切り出し、こう言っているのです。私がこれまで語ったことをすべて覚えておいてください。なぜなら、これから私が語ろうとしていることと深く関わっているからです！

彼がこう言っています。あなたの召しを思い起こし、あなたが持っている信仰を思い起こしてください！なぜなら、お互いを心から愛し合っているとき、その愛から一致が生まれるからです！

キリストのような愛があなた方すべての内にあるその時こそ、そしてその時だけが、あなた方が何から造られているかを思い起こす時なのです。なぜなら、あなた方は神から造られているからです！すべてのものの上におられ、すべてのものを通して、すべてのものの内にいる神によって。

招き
あなたの人生で経験してきたこと、耐えてきた苦難、家族が経験してきた苦難、そして今も経験している苦難は、決してあなたを神から遠ざけるためではなかったのです。
神は、あなたが神により近づくため、そして勝利を得るためにこれを用いられてきました。

コリント一 15:57「私たちの主イエス・キリストによって私たちに勝利を与えてくださる神に、感謝しましょう。」

あなたの過去と、あなたを形作るすべてのものは、神の力の証しであり証言です。もしあなたが神を知らないなら、主イエス・キリストを自分の主であり救い主として知っていると言う人に尋ねてください。彼らは神の奇跡と、経験した勝利と慰めをあなたに語るでしょう。

イエス・キリストを主であり救い主として信じる時、あなたは慈しみ深い父なる神と、すべての慰めの神を知ることになります。すべての苦難の中で私たちを慰めてくださるのは、この方なのです。

イエスのもとに来て、彼による罪の赦しを信じてください。そうすれば、イエスと共に歩み、歩み続ける力が与えられます。主の慰めと存在を体験するでしょう。

終わりに、きょうだいたち、喜びなさい。初心に帰りなさい。励まし合いなさい。思いを一つにし、平和に過ごしなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。(コリントニ 13:11)

これが私たちの召しです。
祈りましょう。

ジェシー・セザリオ牧師
東京バプテスト教会
2025年12月13&14日

先週のメッセージで誤訳がありましたので訂正します。

訂正前:
それが、イエスを本当に知らない「ノーマルなクリスチャン」の姿ではないでしょうか。

訂正後:
それが、イエスを本当に知らない「名ばかりなクリスチャン」の姿ではないでしょうか。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg5125jp

★クラス 301
賜物発見
1月18日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 201 まで修了した、TBCメンバーの方

★クラス 401
人生の使命を発見する
2月8日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 301 まで修了した、TBCメンバーの方

全クラス申し込み: https://t-b-c.us/classes